

第1学年 特別の教科 道徳 学習指導案

1 主題名 他者とよい関係を築くために大切なことは何だろう【内容項目】思いやり、感謝<B- (6)>

2 教材名 「橋の上のおおかみ」 作：奈街 三郎

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

思いやり、感謝とは、「思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること（学習指導要領）」である。そのためには相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだすとともに、感謝の思いを言葉にする姿勢が求められる。

特に学校生活においては、学校の人々や友達など様々な人と直接的に多様な関わり合いをもてるようにすることが求められる。その上で、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、親切な行為を実感できる機会をつくっていくことが重要であると考え、本主題を設定した。

(2) 生徒について

中学生は、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。交友関係も広がり、相手の立場に立って物事を考える機会も少なくない。

そこで、本授業では、相手の立場になって、その行動が本当に思いやりであったのかを考える。自分がよかれと思ったことでも相手にとってはどのようなものだったのかを考え、その上で、相手とよい関係を築くためには、一方が変わるだけではなく、お互いに歩み寄ることが大切だということについても深く考えさせたい。

(3) 教材について

教材「橋の上のおおかみ」は、小学校一年生時に学習した教材である。おおかみがくまの真似をして、うさぎに橋を渡らせた行為をよいこと捉え、「親切にすることはよいこと」を押さえた内容である。しかし、中学生になった今、改めて学習することによって、その行動が本当に相手を思いやった行動なのかを考えさせる。おおかみの行動を受けた動物たち側の気持ちを考えることで、他者とよい関係を築くためには、相手の立場や状況を考えて行動することであることに気付かせたい。

また、おおかみだけでなく、周りの動物たちにも何かできることがあったのではないかと生徒に問題提起をし、話し合いの場を設ける。

(4) 指導について

まず、導入では本のタイトルを生徒に問い、生徒の考えを引き出す。「人の気持ちが分かる人、分からない人どちらになりたいか」を問う。その上で、教材に出てくる登場人物達がどちらか考えさせることで、学習への取り組みを促していく。

展開では、まず、動物たちの気持ちについて考える。おおかみがくまの真似をして行動した場面を取り上げ、動物たちはどう思ったのかを考えさせる。教材は、相手を持ち上げて橋を渡らせた行動を、「思いやり」と捉えて書かれたものなので、本当にその行為が「思いやり」であるのか問い、問題点に気付かせていく。中心発問では、動物たちがこれからどうしていけば、よい関係を築いていけるかを考える。おおかみだけに焦点が当たり、おおかみの行動を改善する発言が多く挙がると予想されるため、「おおかみだけが変わらなければいけないか」と追発問を行うことで、多角的に視点を与えられるようにする。

終末は、他者とよい関係を築くために大切なことは何かを問い、思いやりについて振り返らせたい。

4 本時のねらい

思いやりとは、ただ相手に優しくするのではなく、相手の気持ちや状況によって行動していくものであることを気付かせたい。また、一方通行の行動ではなく、お互いに相手を受け入れて歩み寄ることの大切さを感じさせたい。

5 「考え、議論する」道徳を実現させるための手だて

おおかみの行動を動物たちがどう思ったかについて考える際に、多面的・多角的に考えられるようにするために、心の数直線を用いて、それぞれの思いの詳細を交流できるようにする。

6 準備・資料

教師・・・ワークシート、コミュニティボール 生徒・・・タブレット端末

7 指導過程

時	段階	学習活動	具体的な手だて
6 10 20	導入	1 □に入る言葉を考える。 「人の気持ち」がわかる人、わからない人 ・「勉強」 ・「クイズ」 ・「なぞなぞ」	1 本時のねらいに焦点が当たるように、本のタイトルを考える。 1 物語に出てくる登場人物たちが、相手の気持ちが分かるか、分からないかを問うことで学習に取り組みやすくする。
	展開	2 資料「橋の上のおおかみ」の範読を聞く。 おおかみの行動を動物たちはどう思ったでしょうか。	
		3 他の動物の気持ちを話し合う。 ・おおかみが優しくなっとうれしい。 ・これが続くといいな。 ・急にあんなことをされると怖い。 ・どうして優しくなったのかな。 ・自分もやってみようかな。	3 多くの考えをテンポ良く引き出すために、コミュニティボールを使用する。 3 思考を揺さぶるために、心の数直線を活用する。 3 おおかみの行動を、「肯定的」、「否定的」に分類しながら板書する。
	終末	4 これからどうしていくかを話し合う。 ・おおかみが優しい行動を続けていく。 ・今までしてきたことを謝る。 ・他の動物にも、優しい行動をとる。 ・うさぎも「ありがとう」を伝える。 ・周りの動物たちもおおかみのことを受け入れる。 他者とよい関係を築くために大切なことはなんでしょうか。	4 おおかみが否定的な言葉を投げかけられたらどう思うか考え、これからどうしていけばよいか発問する。 4 多角的な立場で考えられるようにするために、「おおかみだけが変わらなければならないのか？」と、立場を変えて、追発問をする。
45	5 振り返りを書く。 ・相手を受け入れたり、相手の気持ちや状況を考え、行動したりすることが大切だと思った。	5 自己の生活を振り返られるよう、はっとしたことや、生活に生かしたいことなどの視点を与える。	

8 板書計画

1/14 「橋の上のおおかみ」

人の気持ち

わがわからない人

勉強
心
クイズ

優しい

うれしい
優しい
かこいい
なつく

どうは?
びっくり

急い優しい
怖い
何の企てる?
不安
いそいそが
違和感

悲しい

嬉しい

おおかみ

これからどうすればいい?

やり続ける → イメージが変わる

今までのことを謝る

他の方法 → もう一歩橋をつくる
道をやる

ありがとうを伝える
おおかみの手 → 優しい連鎖
おおかみの優いを受け入れる
お互いにやり合う

12:36